

東日本大震災5ヶ月後の被災地の漁港を巡って

江東区の水辺に親しむ会 森本 博行

3.11の大震災後、約5ヶ月。仕事の関係もあって、5月28日と8月9、10、11日に東北地方を駆け足で巡っていました。仙台市、石巻市、気仙沼・大島、陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮古市、久慈市、盛岡市、いわき市小名浜港を巡りました。陸前高田市ではあまりに何もないで、写真を撮る勇気がありませんでした。地域によって被害の程度に差はありますが、復興にはかなり時間がかかると思います。息の長い応援が必要だと痛感しました。



8月9日 石巻板設荷さばき所



8月10日 気仙沼大島港、フェリーは広



8月10日 大船渡 がれきの山
島県江田島市からの借り物

※水彩フェスティバルでの展示の再録です。

水辺の会が協力、竹筒水鉄砲作り

江東区の水辺に親しむ会 清水 千代子

平成23年9月10日(土)に私たちは4人で、水鉄砲作りを指導しました。午前中はげんきっず水神の32名、午後はげんきっず南央の22名に作り方を教えました。当日は朝から暑く、まさに水鉄砲日和でした。1人1人が竹に布を真剣に巻いており、出来上がった鉄砲で的に向けて撃ったり、友達と打ち合ったり、服がびしょ濡れになってしまって、みんなの目はキラキラしており、子供らしさが出ていて素晴らしいかったです。私達もそんな様子を見ることが出来て良かったと思っています。あの子供達が大人になってから思い出してくれたら最高ですね。



最初に何を作るか説明



ウマク作れたと喜ぶ子供たち



的を目がけていっせいに放水

その他の活動

- 8月6日 豊洲水彩まつり参加
- 9月24日 リバーツアー実施
- 11月13日 水彩サロン実施



第12回 水彩フェスティバル

和船友の会の和船乗船体験

第12回水彩フェスティバルに学生ボランティアとして参加した明治学院大学の学生たちが、水彩フェスティバルの感想を書いてくれました。

地元の人たちの手で、地域を作り上げているという印象を受けた

明治学院大学3年 粕谷友理江

9月4日、江東区の水彩フェスティバルに学生ボランティアとして参加した。私が江東区の方々と関わるのは今回が初めてだった。先輩や同期が以前より、水辺に親しむ会の方々とのつながりを持っていることもあり、私もよい関係を作りたいと期待していた。

住吉駅から東京スカイツリーを背に川に沿ってイベント会場である橋まで歩く。途中いくつもカヤックを漕ぐ人を見た。私の地元である宇都宮ではもちろん、今住んでいる品川区では全く見ない光景で新鮮だった。

私は会場に着いてまず、キャンドルナイトでペットボトルに貼る絵を子供たちと一緒に描いた。幼稚園生から中学生まで何人かの子供と接した。みんな近所の子たちで、毎年やっているこのイベントに今年も来たのだと語っていた。子供たちと会話して、このイベントがいかに地域に根付いているか、子供たちの楽しみとなっているかが分かった。

このイベントの参加団体が、外からのイベント会社などではなく、その地域で普段から活動している団体であるからこそ、地元の人から好かれているのだと感じた。まさに地元の人たちの手で、地域を作り上げているという印象を受けた。



キャンドルに貼る絵を描く子供たち

イベント終了後、和船友の会の方々とお話しする機会があり、船に対する情熱や、ボランティアで地元のお祭りを運営することへの想い、やりがいを語ってくださいました。普段大学に通い、同年代の人としか触れ合いかない中、水彩フェスティバルに参加したことでの、全く違う視点を持った大人や、子供とコミュニケーションをとることができた。この経験から、今後も水辺に親しむ会の方々や、和船友の会の方々と交流をさせていただきたいと感じた。

今回はイベントに参加させていただき、ありがとうございました。楽しかったです。

第12回 水彩フェスティバル

suisai festival

心地よい風が体を吹き抜けるのを感じ
水辺の魅力に触れる事が出来ました

明治学院大学3年 河野すみれ

今回初めて参加させていただいたのですが、竹で作った水鉄砲など、普段とは違う遊びにより、親も子供と一緒にになって楽しんで体験されていたのが印象的で良かったです。また、和船やカヌーに乗った時には、日中の暑さにもかかわらず、橋の下にくくると涼しい心地のよい風が体を吹き抜けるのを感じ、水辺の魅力に触れる事が出来ました。

川や運河のある江東区には自然がたくさん残されています。30年前から住んでいる方に、川の色も街も昔と全然違う、と話を伺いました。変わりゆく街の中で、いつまでも自然の大切さ、特に江東区は水辺に関心を持っていて欲しいなと思いました。

貴重な体験をさせていただいたことに感謝しております。本当にありがとうございました。

特に印象に残ったことは、子供たちの好奇心の高さです

明治学院大学3年 朝原拓也

今まで、私は殆ど江東区と関わりがありませんでしたが、水辺に親しむ会を通じて、様々な江東区の行事に参加する機会をいただいております。そして、今回初めて水彩フェスティバルに参加させていただきました。近隣の江東区民の方々のお話を伺ったり、和船友の会の方に江東区の地理について教えてもらったりと、様々な方とコミュニケーションを図ること出来ました。特に印象に残ったことは、子供たちの好奇心の高さです。和船に乗っている際に、子供たちが漕ぎ手の方に何度も質問をしていました。そのやり取りを聞いていて、一番勉強になったのは子供たちではなく、実は私自身であったと思います。

今回改めて感じたことは、普段、自分自身と同じような年齢の人との関わりが殆どである私にとって、このような機会はとても貴重であり、刺激になるということです。これからも積極的に活動に参加させていただいて、自分の興味関心を広げてゆきたいと思います。



今年初参加の江東ジュニアカヌークラブ



釣ったヨーヨーをもらって、お父さんと一緒に遊ぼうね



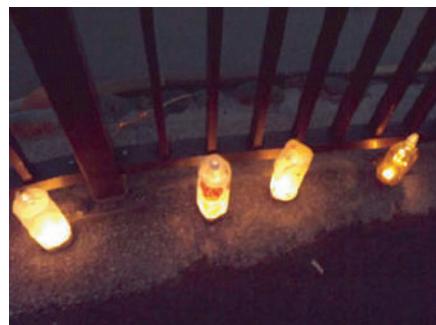
今年は被災地支援のショップも出ました



水辺のステージにはハワイアンが似合います



成長めざましい、毎年参加の太鼓の子供たち



夕暮れに水辺を彩るキャンドル



水上からの風景を堪能し、貴重な体験となりました

明治学院大学4年 坪井佳武

水彩フェスティバルでは、和船の乗船体験などの様々なイベントが実施されていました。私はカヌーという手漕ぎ船を試乗し、小名木川を遊覧しました。陽射しの強い日でしたが、水上は涼しく、なかなか目にすることの出来ない水上からの風景を堪能し、貴重な体験となりました。

水辺では子供達が遊んでいたり、釣りや散歩などをしている人がいたりと、水辺の街江東区の活気ある暮らしを感じる事が出来ました。

この貴重な体験を糧とし、繋がりを大事にしていければと思います

明治学院大学4年 中村寧樹

第12回水彩フェスティバルは当初9月3日に予定されていましたが、台風の影響により、9月4日に順延となってしまいました。9月4日当日の朝も、強い雨が降っており、中止になるかと天候には非常にハラハラとさせられましたが、そのような不安もすぐに解消され、昼前には、清々しい快晴となり、無事に様々なパフォーマンスを堪能することができました。

順延の為、9月3日に予定されていた企画が無くなってしまい、イベントが少なくなってしまった事は残念ですが、和船や、カヌーの無料で行える体験で、存分に水辺に親しむことができました。

今回、水彩フェスティバルをお手伝いさせていただき、実際にこういったイベントの実行委員会に参加させていただくことで、机上での勉強では決して学ぶことのできない経験をする事ができ、携わった各団体、コミュニティの皆様には厚く感謝申し上げます。この貴重な体験を糧とし、繋がりを大事にしていければと思います。